

これからどうなる日本経済 大岡記念財団理事長

東京 RC 大岡 哲氏

卓話者紹介 山下 憲男委員長
1951年生まれ。東京大学卒業後、日本開発銀行入行。米国スタンフォード大学客員研究員、日本政策投資銀行審議役などを経て、日本大学、慶應義塾大学、中央大学の教授などを歴任。「日本経済を考えるヒント」などの多くの著書があります。

※卓話内容は掲載いたしません

閉会点鐘

牛島 聡副会長

ドキュメント映画「ウォーナーの謎のリスト」 八木 壮一雑誌会報委員長

神保町は第二次世界大戦中に爆弾を落とされなかった。一昨年40万冊の疎開を製作した金高謙二監督にこの話をした。このことから監督の米国の図書館、関係者への綿密な取材がこの映画となった。風聞のように言われていた「神保町の奇跡」が実証された。駿河台下から専修大学までの皇居寄りの街区が戦禍を免れて残った。明治時代からの古書街が残った。写真は戦後エリセーエフが日本に来た時に北沢書店に寄ってこの話をしていた昭和30年頃の写真。今回初めて出現した写真である。映画の概要は逢坂先生の文をお読み下さい。神保町シアターで10月29日から11月4日まで上映されます。高山、八木に言って頂ければ特別鑑賞券1,300円がごございます。

※先週の卓話者の原稿が掲載不能になりましたので、急遽、逢坂先生の原稿を掲載させていただきました。

神保町の奇跡 逢坂 剛氏

太平洋戦争、第二次世界大戦に関する極秘文書、未公開史料等が戦後七十年を過ぎた今も、毎年のようにどこからか掘り起こされ、歴史を少しずつ塗り替えていく。

この『ウォーナーの謎のリスト』も、そうした貴重な新資料の一つといえよう。

終戦間際、米軍によるわが国への仮借なき爆撃が、断続的に繰り返された。ことに、昭和二十年三月十日の空襲は激しく、東京の下町はほとん

ど壊滅してしまった。そうした中で、たまたま(?)空爆を免れた都市や地域が、いくつか存在する。実は、神田神保町の古書街もそこに含まれていた。その理由については、米軍が貴重な書籍や文献が集積された活字文化の中心地を破壊するのを避けるため、あえて爆撃地点からはずしたのだという、もっともらしい説が行なわれた。ただ、それはいささか作られた美談の印象が強く、まじめに受け取れないものがあつた。

ところが、この映画では神保町をはじめとして、日本全国にちらばる歴史的遺産、文化財を守るため、実際に米軍が爆撃の対象からはずすべき地点、施設のリストを作成していた、との秘話が新たな証言、証拠とともに明らかにされた。そのプロジェクトに関わった、ウォーナーやエリセーエフ、朝河貫一(エール大学教授)らの活動が、関係者の証言や研究者の解説によって、次つぎに明かされるこのドキュメンタリー作品は、良質のミステリー映画を見るような驚きを与えてくれる。よくここまで広く、深く掘り下げることができたのだと、その執念と努力には驚きを禁じえない。しかも、ことさらスクープ感をあおることなく、否定的な意見も過不足なく取り入れながら実証的かつ客観的な記録映画にまとめ上げたその姿勢は大いに評価すべきだろう。

こうした、良心的な動きがあつたにもかかわらず、米軍は戦争を早期に終結させるためと称して、広島と長崎に原爆を落とした。その大義が、実はあとからこじつけられた言い訳にすぎず、実際には冷戦が予想されていたソ連に対する牽制、という意味合いが大きかったことが近年明らかにされている。

こうした、意義ある研究や活動が絶え間なく続けられながら、いまだに戦争やテロがなくなることはないのは、まことに遺憾なことといわざるをえない。それを考えると、人間というものがいかに愚かな存在であるか、あらためて痛感させられる。

とはいえ、この映画のような意義ある試みが、くじけずに続けられることによって、また希望もわいてくるのである。



前列中央 エリセーエフ氏
(写真提供 北沢書店)

創立/1993年10月13日(平成5年)
事務局/〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-2
グラントマン九段906号
Tel: 03-3288-7300 Fax: 03-3288-7400
E-mail: ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp
<http://tokyo-orc.jp/>

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
例会場 ホテルグランドパレス Tel: 03-3264-1111
会長 小田 孝志 幹事 奥山 聡
会報 八木 壮一(委員長) 松島 健(副委員長)
大原正道 佐々木啓策 山下秀一 山下憲男(委員)